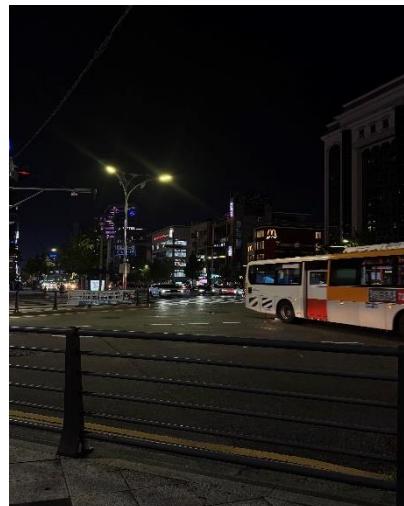


2025年度ウルサン大学学生交流プログラム報告書

1日目 2025年8月18日 学部生4年

1日目は、大分から電車と飛行機を乗り継ぎ、釜山空港に向かいました。空港では、韓国の交流学生が出迎えてくれました。その後、バスに乗り、1時間ほどかけて蔚山市まで行きました。バスの中では、1か月ぶりの再会であったため、たくさんのお話をしました。

大分での交流では、言語の壁を実感した場面が多かったため、英語や韓国語を1か月間勉強して向かったこともあります。さらに会話が弾みました。バスから見える景色が日本とは全く違い、たくさん質問したり、地域のことを教えてもらったりしながらバス車中での時間を過ごしました。



夕食は、蔚山市にある参鶏湯（サムゲタン）のお店に行きました。参鶏湯で使う鶏や高麗人参などの食材は身体を温める効果があり、内臓が温まって気力を回復するのに役立つ食べ物であるので、夏によく食べる食べ物だと教えてもらいました。お昼が軽食だったので、学生みんなお腹がすいていたのでよりおいしく食事ができました。参鶏湯は日本ではなかなか食べられないものであり、すごくいい経験でした。また、食べ方がわからない日本の学生に対して、韓国の学生が丁寧に食べ方を教えてくれました。韓国の料理はたくさんのおかずがついてきました。初日から日本との食文化の違いを実感しました。

夕食後は、次の日が早いスタートであったため、韓国の学生とは解散して、日本の学生だけでホテル近くのコンビニエンスストアに行って買い物をしました。日本でも人気のあるお菓子やアイスクリーム、デザートがたくさんあり、食後でおなかいっぱいであるにもかかわらずたくさん買い物をしました。

2日目 2025年8月19日 学部生3年

〈蔚山大学〉

午前中は蔚山大学を訪問しました。蔚山広域市の保健医療資源と市民の健康管理についての説明を受けました。次に韓国の交流学生の代表の方が先月に日本に来た際の学びを英語でプレゼンテーションしてくれました。たくさん練習して、一生懸命準備したと言っており、とても嬉しかったです。その後、看護学部のダンスチームの皆さんがK-popダンスを披露してくれ、私たちの訪問を歓迎してくれました。



お昼ご飯は大学の近くの繁華街のお店でピザとパスタを食べました。お昼の後に少し自由時間があり、みんなで4カットフォトを撮りに行き、とても充実した時間になりました。

お昼ご飯のあとは大学の施設を見学しました。蔚山大学の創設からの歴史を学ぶことのできる資料館や中央図書館を見学しました。自習やグループワークのできるところが多くあり、学習環境が整っているなと感じました。



その後「アサンスポーツセンター」を見学しました。体育館やプール、ジム、食堂などがそろっており、充実したスポーツ施設です。私たちが見学を行っている間にも、老若男女、年齢性別問わずたくさんの方が利用されている姿がみられました。学生だけでなく地域の人も利用できる施設で、大学と地域のつながりを感じることのできる場所でした。



午後からは3施設を見学しました。

〈Mugo Healthy Living Support Center〉

施設の1階には地域住民のためのトレーニングルームや健康相談のできる場所があり、2階には調理室や多目的ホール、事務室がありました。看護師や栄養士、運動療法士が在籍しており、血圧や血糖を管理するプログラムの運営が行われています。私たちが見学させていただいている時に実際に地域住民の方がトレーニングルームを利用している様子を見学させていただくことが出来ました。調理室では健康食や飲料について学びながら料理を行うことが出来る場所です。高血糖の人だけでなく、学びたい人は誰でも利用できるようになっています。



〈Relief House from Dementia〉

「認知症安心ハウス」という認知症の方が安心して過ごせる環境を提案するモデルルームの見学を行いました。例えば、迷子防止対策として服に連絡先等書かれたものにつけることや熱湯から守るためにストッパーを設置すること、鏡に映った自分を自己と認識できずに話し続けることを予防するためにブラインドをつけることなどたくさんの工夫がなされていました。韓国では家族の同意のもと、認知症の人をナンバーで登録するシステムがあることを教えてもらいました。このシステムに入っている人について、関係者にいつどこでどんな人がいないか情報が届くようになっているそうです。社会全体で認知症の人を支えていることを学ぶことが出来ました。また、認知症予防のために思い出の写真を部屋に飾ることや手すりを設置すること、食器の工夫することなど日本でも共通して行われていることもありました。韓国も日本と同様に個人の身体機能や障害のレベルによって支援が行われることを教えてもらいました。日本も韓国も共通して高齢化が進んでいます。国や言語、文化が違う中で同じような取り組みや工夫がなされていて、とても興味深く感じました。



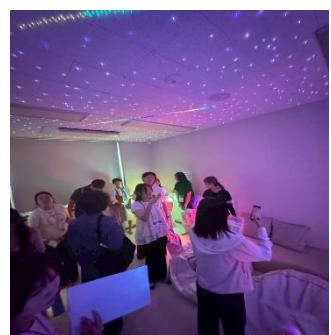
〈Namgu Public Health Care Center & Dementia Care Center〉

蔚山南部保健所では、心血管疾患予防センター、歯科室、検査室を案内してもらいました。心血管疾患予防センターでは血圧やコレステロール、血糖についての看護師や栄養士に相談をすることが出来ます。ジムが併設されており、無料で使用することが出来ます。

歯科室では歯科治療と歯についての教育が行われています。歯科医師 2 名、看護師 1 名、歯科衛生士 2 名が在籍しています。障害者や生活困窮者が診療、治療を受けられるようになっています。また、学校や老人ホームで講義・教育も行っています。ここでは歯科医院と同様の機器があり、治療もできるとおっしゃっていて驚きました。また、地域住民に限り、予約して利用することもできるようになっています。検査室では、採血を行い、隣の部屋で血液検査を実施できるようになっていました。白血病や生活習慣病、肝機能、AIDS、HIV、B 型肝炎などの検査ができるようですが、1 日に約 250 人の検査が行われています。AIDS の検査は月に 300 名ほど実施されています。HIVにおいては日本と同様、匿名での検査を実施しているそうです。

保健所見学の後は保健所のすぐ隣にある「認知症ケアセンター」の見学を行いました。高齢者の方が認知症予防のために通うことのできる施設です。1 日に 50 人ほどが利用しており、ストレス測定や認知に関する様々なトレーニングを行うことが出来ます。また、部屋が少し薄暗く天井に星のようなライトがちりばめられているリラックスできる「精神安心ルーム」という部屋がありました。床が柔らかい素材で出来ており、ビーズクッションがあり、認知症プログラムの付き添いの人が休めるようになっているそうです。

韓国では私が知る範囲では日本よりも予防を重要視し、力を入れて取り組んでいることを感じました。どの施設にもジムのような体を動かせる場所が併設されていることからも日本より健康意識が高いのだろうかと考えました。また、韓国の保健所は日本の保健所に比較して、一部役割が異なっているようで、小さな病院のような印象を受けました。



3日目 2025年8月20日 学部生4年

〈蔚山大学病院〉

3日目の午前に、蔚山大学病院の見学に行きました。病棟見学の前に蔚山大学病院の歴史や、看護学部の説明を看護部長の方がしてくださいました。蔚山大学は今年で設立50年であり、今年の重点課題として「患者中心のサービスの提供」を掲げていることを教えていただきました。蔚山大学病院は、蔚山市で唯一の総合病院であり、地域の医療を支えていることがわかりました。蔚山大学病院では、働く人々がストレスを軽減しワークラフバランスを維持できるようにするためのプロジェクトがあること、教育看護師が新人看護師を教育していること、新人看護師に対するメンタルヘルスプログラムがあること、また、新人看護師の100日記念を祝う行事も開催していることを教えていただきました。新人看護師が慣れない環境で働くことに対して病院側がたくさんの支えや工夫を行っていることを知りました。また、韓国では新人看護師に対して教育看護師が一人づくので、全員が新年度からすぐ働き始めるのではなく、自分の順番が来るまで待たなければならないことを韓国の学生に教えてもらいました。日本との違いを感じました。

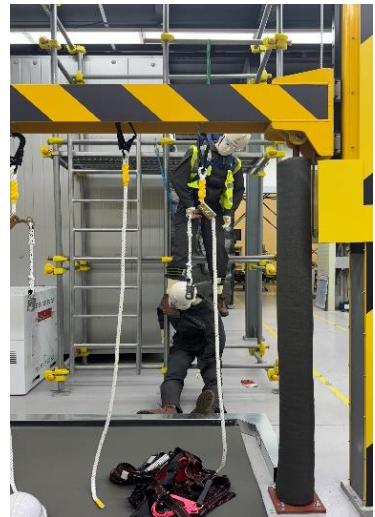
ICUの見学では、実際の看護の様子や患者さんを見ることができました。蔚山市は工業地域であるため、仕事現場での外傷で運ばれてくる患者さんが多いことを学びました。ICUの患者さんの状態も地域の特性が反映されることを学ぶことができました。

〈産業衛生〉

午後には、産業衛生について学習しました。蔚山市は工業地帯であるため、常に危険と隣り合わせで生活している人々が多いです。そのため、地域の人々の健康を守るには、職場への災害防災訓練や教育が必要不可欠であることを学びました。騒音がある環境で数十年も働き続けると、聴力が低下し、その人の一生に害を及ぼします。そのため、職場には、騒音を遮断するためのヘッドフォンを推奨し、聴力に対する害を最小限に防げるような指導を事業に説明することが地域住民の健康を維持することにつながる



ことを学びました。騒音以外にも、有害物質が発生する職場環境で働く人々への防災指導も学ぶことができました。このように、看護師は健康障害が出た人々と関わることが多い職業ではありますが、実際にどうやってその害を防いでいるのか学ぶことができて、非常に有意義な経験になりました。この学びは、日本でも当てはまることが多いと思います。そのため、この知識を今後も生かしていきたいです。



4日目 2025年 8月21日 学部生3年

釜山での一日を存分に楽しんだ。午前中は「Ananti at Busan」に向かい、美しい海を眺めました。空の青さと海のきらめきが重なり合い、まるで絵画のような風景でした。みんなで集合写真を撮ったほか、二人組でのツーショット、日本から来たメンバーだけでの写真など、さまざまな形で写真を撮りました。

海を堪能した後は、近くのカフェで冷たいジュースを楽しみました。カフェで冷たい飲み物を楽しんだ後、少し坂を上がったところにある雑貨屋に行き、買い物を楽しみました。雑貨屋の中には韓国らしいデザインの小物やアクセサリーが並び、日本ではなかなか見られないようなアイテムがたくさんありました。

昼食は、ビビンバを食べました。石焼ではなく、お皿に並んだ具材を自分で取り分けて食べるスタイルで、日本の食事文化との違いを実感しました。韓国の人々の「分け合う文化」が食事にもしっかりと根づいていることに気づき、食を通して文化の一端を学ぶ貴重な体験でした。

午後からは、韓国の有名な遊園地「ロッテワールドアドベンチャー」へ向かいました。園内には日本では見られないような独自のジェットコースターがあり、私たちは三種類の乗り物に挑戦しました。通常のジェットコースターのスリルはもちろん、水に濡れるタイプの二種類は想像以上に迫力があり、乗った後は全身がびしょ濡れになりました。また、園内では「ウォーター・ボム」というイベントが行われており、スタッフが大きな水鉄砲を使って観客に水を浴びせるという迫力満点の企画でした。水しぶきと笑い声に包まれながら、みんなで子供のように楽しむことができました。

夜は、チキンを食べに行きました。四種類の味付けがあり、それぞれ違った美味しさを楽しむことができました。特にヤンニヨムチキンはとても辛かったです。

その後はカラオケに移動し、日本の曲を韓国の学生が歌ってくれたり、逆に韓国の曲と一緒に歌ったりするなど、国境を越えて音楽で繋がる楽しさを味わいました。みんなで声を合わせ、笑顔で盛り上がる時間は、言葉の壁を超えた大切な思い出となりました。



5日目 2025年8月22日 学部生3年

ついに1週間にわたる韓国での短期留学プログラムが最終日を迎えました。

この日は朝から名残惜しい気持ちでいっぱいでしたが、韓国の学生全員が私たち日本の学生を見送るために空港までのバスと一緒に乗車してくれ最後の最後までたくさんの会話を交わし、温かく寄り添ってくれました。

空港に到着してからも、韓国の学生たちは私たちがスムーズに出国できるように、荷物の預け方や座席の確認方法など、細かい手続きまで丁寧にサポートしてくれました。そのおかげで、私たちは不安を感じることなく、安心して搭乗口まで向かうことができました。

そして、搭乗前の最後の時間に、韓国の学生たちが用意してくれた寄せ書きを受け取りました。そこには、一人ひとりからの温かいメッセージが書かれており、中には日本語で丁寧に書かれたものもありました。留学中の思い出や一緒に過ごした時間に触れた言葉を読み進めるうちに、この1週間がどれほど充実し、心に残る時間だったかを改めて実感し、胸が熱くなりました。

私たち日本の学生も、前日の夜に心を込めて準備していた手紙と、ロッテワールドで、内緒で購入しておいたお揃いのバッジを、一人ひとりに手渡しながら感謝の気持ちを伝えました。プレゼントを受け取った韓国の学生たちはとても喜んでくれ、中には涙を浮かべながら「ありがとう」と伝えてくれる学生もいて、お互いの気持ちの深さを強く感じる瞬間となりました。

別れ際には、みんなでたくさん写真を撮り合い、「また必ず会おう」「次は日本で再会しよう」と約束を交わしました。涙ながらのお別れにはなりましたが、それだけお互いにとって大切な存在になれたと感じて、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回の留学を通して、言葉や文化を超えた人と人とのつながりの温かさを強く感じることができました。そして、国は違っても同じ時間を共有し、理解し合うことの大切さを学びました。

